

# 宮 崎 県 感 染 症 週 報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

## 宮崎県第38週の発生動向

### □ 全数報告の感染症 (38週までに新たに届出のあったもの)

1類感染症：報告なし。2類感染症：結核4例。3類感染症：報告なし。

4類感染症：日本紅斑熱1例。5類感染症：劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例、百日咳8例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類	結核	宮崎市	70歳代	女	無症状病原体保有者	—
			80歳代	男	結核性リンパ節炎	発熱
		都城	50歳代	女	無症状病原体保有者	—
		日向	50歳代	女	無症状病原体保有者	—
4類	日本紅斑熱	高鍋	40歳代	男	—	発熱、発疹、肝機能異常
5類	劇症型溶血性レンサ球菌感染症 百日咳	宮崎市	60歳代	女	—	ショック、腎不全、軟部組織炎
			10歳代	男	—	持続する咳、スタッカート、嘔吐
		延岡	0~4歳	男	—	持続する咳、夜間の咳き込み、スタッカート、ウーブ
		日南	5~9歳	女	—	持続する咳
			5~9歳	女	—	持続する咳
			5~9歳	女	—	咳
			10歳代	女	—	持続する咳、夜間の咳き込み
			10歳代	女	—	咳、痰
			5~9歳	男	—	持続する咳、夜間の咳き込み

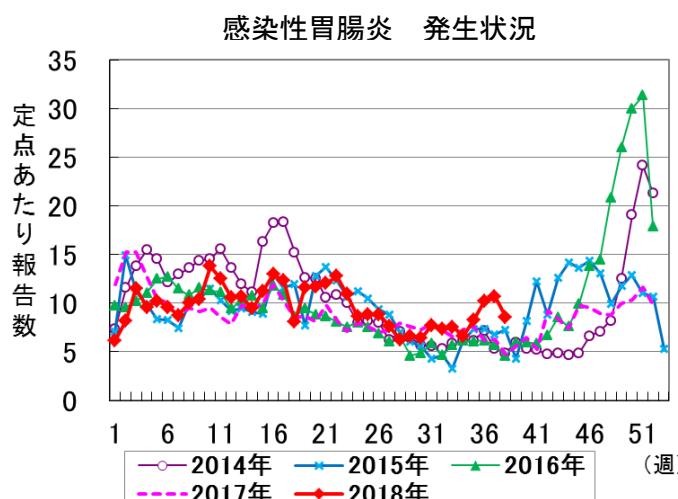
### □ 定点把握の対象となる5類感染症

・定点医療機関からの報告総数は715人(定点当たり23.5)で、前週比88%と減少した。なお、前週に比べ増加した疾患は流行性角結膜炎で、減少した主な疾患は水痘と流行性耳下腺炎である。

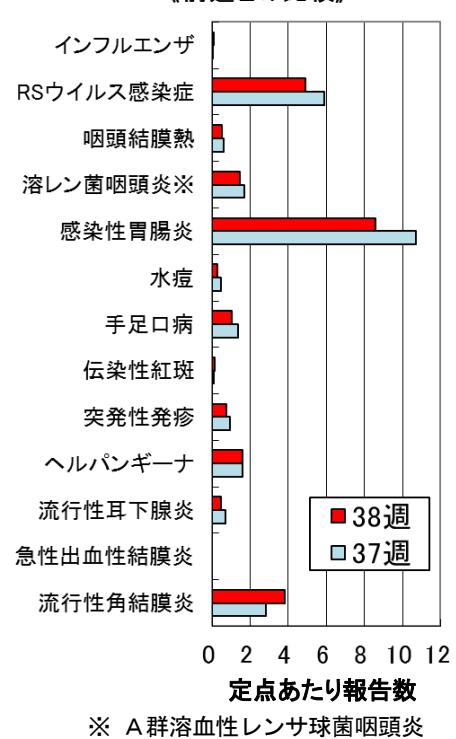
#### ★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

##### 【感染性胃腸炎】

報告数は300人(8.6)で、前週比80%と減少したが、例年同時期の定点当たり平均値\*(5.5)の約1.6倍である。日南(35.7)、日向(9.8)、小林(8.7)保健所からの報告が多く、年齢群別では1~2歳が全体の約3割を占めている。



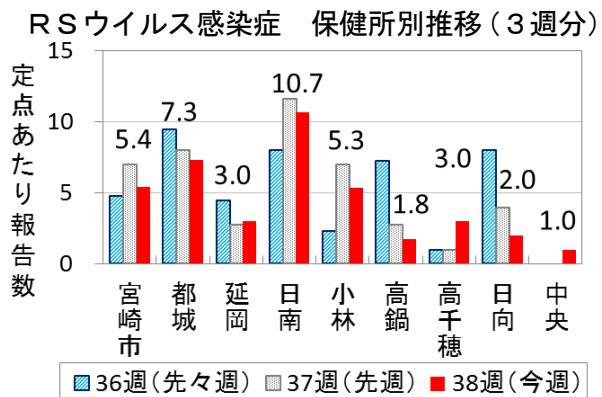
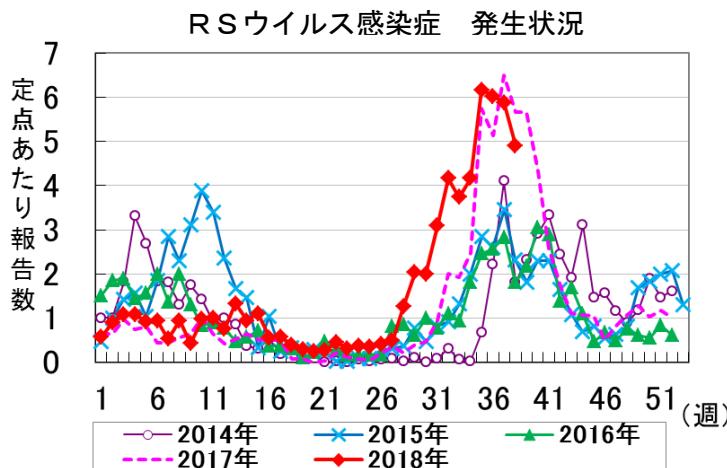
#### 《前週との比較》



## 【RSウイルス感染症】

報告数は172人(4.9)で、前週比83%と減少したが、例年同時期の定点当たり平均値\*(3.5)の約1.4倍である。日南(10.7)、都城(7.3)保健所からの報告が多く、年齢群別では2歳以下が全体の約9割を占めている。

\* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均



## ★基幹定点からの報告★

報告なし。

## ★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	なし
都城	なし
延岡	ヘルパンギーナ(7.5)
日南	感染性胃腸炎(35.7)
小林	なし
高鍋	なし
高千穂	なし
日向	なし
中央	水痘(4.0)

### \* 流行警報レベル開始基準値\*

- ・感染性胃腸炎(20.0)
- ・水痘(2.0)
- ・ヘルパンギーナ(6.0)

## □病原体検出情報 (衛生環境研究所微生物部 平成30年9月25日までに検出)

### ★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取年月日	臨床症状等	検出材料	分離・検出日
Salmonella Corvallis (O8:z4,z23:-)	50歳代	男	2018.08.14	発熱(39.0°C)、発疹、下痢、肝機能障害	便	2018.09.04
Salmonella Oranienburg (O7:m,t:-)					血液	2018.08.27
Salmonella Oranienburg (O7:m,t:-)	0~4歳	男	2018.09.13		便	2018.09.12
Salmonella Miyazaki (O9:l,z13:1,7)	0~4歳	男	2018.09.04	下痢、血便、腹痛	便	2018.09.13
EHEC(O26:H11 VT1)	0~4歳	男	2018.09.05		便	2018.09.04
EHEC(O26:H11 VT1)	20歳代	女	2018.09.06		便	2018.09.04
EHEC(O157:H7 VT1,2)	90歳代	女	2018.09.05	下痢、血便、腹部膨満	便	2018.09.07
EPEC(O153:H21 eae)						

○50歳代前半の男性の便から *Salmonella Corvallis* 及び *S. Oranienburg* が分離され、血液からは *S. Oranienburg* のみが分離された。サルモネラ属菌は経口感染が一般的であるが、複数の血清型が分離された場合は、食品に複数の血清型のサルモネラ属菌が混在していたか、あるいはまな板が複数のサルモネラ属菌で汚染されていたことなどが考えられる。食中毒起因菌の経口感染を防ぐためには、調理の際に食品を十分に加熱することに加え、まな板を清潔に保つことも重要である。また、検査する際の注意点として、同一人物の検査材料で血清型が異なる場合や同定できない場合は可能な限り複数のコロニーを釣菌し、検証することが必要となる。

## ★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取年月日	臨床症状等	検出材料	分離・検出日
RSウイルス(再掲) ヒトメタニューモウイルス	0~4歳	男	2018.08.06	RSV細気管支炎、hMPV混合感染、38.0°C、下気道炎(気管支炎)	咽頭ぬぐい液	2018.09.14
インフルエンザウイルスAH3	50歳代	女	2018.07.27	A型インフルエンザ、37.8°C、上気道炎(咽頭炎・咽頭痛)	鼻汁	2018.09.25
インフルエンザウイルスB (ビクトリア系統)	50歳代	女	2018.09.21	インフルエンザB型、38.0°C、筋肉痛、上気道炎(咽頭炎)	咽頭ぬぐい液	2018.09.25

○インフルエンザB型と診断された成人1名から、インフルエンザウイルスB(ビクトリア系統)が検出された。厚労省が指定する2018/2019シーズンは9月の第1週からであり、今シーズン、宮崎県では1例目となるインフルエンザウイルスの検出である。昨シーズンの主流は、インフルエンザウイルスB(山形系統)、AH3であり、当所においては、B(ビクトリア系統)は1例も検出されなかった。2018年9月25日現在、今シーズンの全国の状況をみると、AH3が1件、AH1pdm09が8件分離・検出されている。今後、インフルエンザの流行が予想されることから、今後の動向に注意する必要がある。

## ■ 全国2018年第37週の発生動向

### □ 全数報告の感染症（全国第37週）

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核		329例			
3類感染症	細菌性赤痢	2例	腸管出血性大腸菌感染症	135例	パラチフス	1例
4類感染症	E型肝炎	13例	A型肝炎	17例	エキノコックス症	1例
	重症熱性血小板減少症候群	2例	デング熱	7例	日本紅斑熱	7例
	マラリア	3例	ライム病	1例	レジオネラ症	43例
	レプトスピラ症	2例				
5類感染症	アメーバ赤痢	8例	ウイルス性肝炎	3例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	43例
	急性弛緩性麻痺	1例	急性脳炎	1例	クロイツフェルト・ヤコブ病	4例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	7例	後天性免疫不全症候群	11例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	5例
	侵襲性肺炎球菌感染症	17例	水痘（入院例）	3例	梅毒	81例
	播種性クリプトコックス症	1例	破傷風	1例	パンコマイシン耐性腸球菌感染症	1例
	百日咳	242例	風しん	127例	麻しん	2例

### □ 定点把握の対象となる5類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比100%と横ばいであった。なお、前週と比較して増加した主な疾患は流行性耳下腺炎と咽頭結膜熱で、減少した主な疾患はヘルパンギーナである。

RSウイルス感染症の報告数は7,712人(2.5)で前週比103%とほぼ横ばいであったが、例年同時期の定点当たり平均値\*(1.4)の約1.8倍である。宮崎県(5.9)、山形県・徳島県・香川県(各5.6)からの報告が多く、年齢群別では2歳以下が全体の約9割を占めている。

感染性胃腸炎の報告数は11,473人(3.7)で前週比98%とほぼ横ばいであったが、例年同時期の定点当たり平均値\*(3.2)の約1.1倍である。宮崎県(10.7)、大分県(9.8)、鹿児島県(6.4)からの報告が多く、年齢群別では1~2歳が全体の約3割を占めている。

\* 過去5年間の当該週、前週、後週（計15週）の平均

## 宮崎県 感染症情報

(71定点医療機関)

2018年 第38週(09月17日~09月23日)

疾病名		第37週	第38週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	3	6	2	4							
	定点あたり	0.05	0.10	0.13	0.40	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	206	172	49	44	12	32	16	7	3	8	1
	定点あたり	5.89	4.91	5.44	7.33	3.00	10.67	5.33	1.75	3.00	2.00	1.00
咽頭結膜熱	報告数	21	17		1	9	1		1		5	
	定点あたり	0.60	0.49	0.00	0.17	2.25	0.33	0.00	0.25	0.00	1.25	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	59	50	15	7	16	1	1	7	1	2	
	定点あたり	1.69	1.43	1.67	1.17	4.00	0.33	0.33	1.75	1.00	0.50	0.00
感染性胃腸炎	報告数	375	300	44	41	12	107	26	23	2	39	6
	定点あたり	10.71	8.57	4.89	6.83	3.00	35.67	8.67	5.75	2.00	9.75	6.00
水 痘	報告数	16	10	1			3		2		4	
	定点あたり	0.46	0.29	0.11	0.00	0.00	1.00	0.00	0.50	0.00	0.00	4.00
手足口病	報告数	47	36	9	3	5	3	12	1		1	2
	定点あたり	1.34	1.03	1.00	0.50	1.25	1.00	4.00	0.25	0.00	0.25	2.00
伝染性紅斑	報告数	2	4	2						1		1
	定点あたり	0.06	0.11	0.22	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00	0.00	1.00
突発性発しん	報告数	33	26	6	4	6	3	4	2		1	
	定点あたり	0.94	0.74	0.67	0.67	1.50	1.00	1.33	0.50	0.00	0.25	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	55	55	5	3	30	4				11	2
	定点あたり	1.57	1.57	0.56	0.50	7.50	1.33	0.00	0.00	0.00	2.75	2.00
流行性耳下腺炎	報告数	25	16	1	6	1	8					
	定点あたり	0.71	0.46	0.11	1.00	0.25	2.67	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	17	23	16	3	4						
	定点あたり	2.83	3.83	5.33	1.50	4.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

インフルエンザ定点:58、小児科定点:35(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数

下段:定点あたり報告数

全数把握対象疾患累積報告数(2018年第1週~38週)

2類感染症	結 核	127例(4)			
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	34例			
4類感染症	E型肝炎	3例	A型肝炎	22例	重症熱性血小板減少症候群
	つつが虫病	1例	デング熱	1例	日本紅斑熱
	レジオネラ症	5例	レプトスピラ症	1例	
5類感染症	アメーバ赤痢	1例	ウイルス性肝炎	4例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症
	急性脳炎	6例	クロイツフェルト・ヤコブ病	2例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症
	後天性免疫不全症候群	5例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3例	侵襲性肺炎球菌感染症
	水痘(入院例)	1例	梅 毒	3例	播種性クリプトコックス症
	破傷風	4例	百日咳	245例(8)	風しん

( )内は今週届出分、再掲